

風土記の丘の花だより¹¹⁴

今、そしてこれから見られる植物(2021年12月11日)

今回は、まずお詫びと訂正です。前々回 112 号のヒイラギについての記述に付いて誤りがありました。「花は雌株に付きます」とありましたが、それは誤りです。花は雌



株にも雄株にも付きます。ただ、雄株に咲く花の雌しべは成熟せず、実はできません。左の写真は今月の 8 日に撮ったものです。真ん中から伸びているのが雌しべです。ですからこの花が咲いている木は雌株ということになります。私の勉強不足で誤った情報をお伝えしました。誠に申し訳ありませんでした。では、気を取り直して・・・



ハナゾノツクバネウツギの種子です。と言っても余りピンときませんね。ふつうアベリアと呼ばれています。和名に「つくばね」と付いていますが、この種子を見ると頷きませんか？羽根つきの羽のようです。花は名前のとおり花園みたいにきれいですが、この目立たない実は興味深く観察しないと気づきませんね。



修復古墳のヤドリギを目指して下りていくと、足元にナンキンハゼの実が落ちていました。名前から分かるように中国が原産の木で、公園や道路沿いに街路樹としてよく植えられています。冬に黒い実が割れると、中から白い種子が顔を出し、まるで枝先に雪が積もったように見えます。ハゼとは、かぶれるハゼノキではなく、実が割れることを「はぜる」ということからきています。



少し前に紹介したナナミノキによく似たクロガネモチの実です。これにも雌雄があり、実がなっているのは雌株です。「くろがね」とは鉄のことで、この木の材が鉄の色（どんな色？）に似ていることからこの名前が付いたそうです。アブラゼミの抜け殻がまだ付いていました。



ヤドリギが付いているポプラの木に負けず劣らず存在感を放っているのがフウの木です。江戸時代に中国から入って来たそうです。今、きれいに紅葉しています。漢字では「楓」と書きますが、カエデとは関係なく、フウ科の植物です。実も丸くて可愛いです。松下